

KS KS

かがやき

ひかり福祉会広報 vol. 97

皐月号
2017

特 集

ひかり福祉会 研究集会 ～歴史と未来への展望～



CONTENTS

創立 50 周年に向けて ··· P 2、P 3
新人研修／助成・寄贈報告 ··· P 6、P 7

ひかり福祉会研究集会 ··· P 4、P 5
寄付・お礼／編集後記 ··· P 8

2000年12月12日 第二種類郵便承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

理事長 立岡 晴



創立五〇周年に向けて

ひかり福祉会の未来



■創立五〇年に向けて

ひかり福祉会の仲間たちを乗せたひかり号列車は、走り出してから一〇年・二〇年・三〇年の駅を越え、昨年六月一日には創立四〇周年の駅に降り立ち、三〇〇人余の人たちとお祝い会をし、記念写真も撮りました。

そしてあれから早くも一年が経過。今は五〇年の駅に向け走り続けています。きっと途中でこのひかり号列車に乗

つてこられる人も、ひょっとして途中下車される人もあるでしょう。何はともあれ大切なのはひかり号列車が安全・安心して乗つていられる列車にすることです。安全第一と言つても最も大切なのは道行を決めるレールでしょう。

そして列車を安全に運転する運転手さん。大勢乗せた列車なので副運転手さんも交代要員も必要です。それに車掌さんはじめ乗務員さん等々、

多くのスタッフの皆さんが力を一つにしなければなりません。更には四〇年以上走り続けているとエンジンや車輪に客車など、取り換えも修繕も整備も必要です。それぞれが各部署でしっかりと走れるひかり号にしていきましょう。燃料のガソリンも切らせないよう補給や点検も大切です。

沿道では応援旗を振つて下さる地域の後援会の人や、お願いしますよと託されるご家族も沢山おられます。みんなの夢を乗せ、新たな未知の駅に向けひかり号列車がスムーズに走れるよう努力がしますよう。

■温かく乗り心地の良い列車

ひかり号列車は障害のある仲間たちがたくさん乗つておられます。出発駅で乗りあわせた障害のある人はどんな思いで乗車されたのでしょうか。一緒にご飯を食べ、片言で話合い、みんなでお仕事が出来るようになり列車の走る方向が見え始めたので、どの人にも微笑みが見えるようになりました。

その尽力にも限度が出始め、ひかり号列車の中だけではなくすべてが解消できないほどになつてきている今、新たな考え方で運転せねば列車は重くなってしまいます。

様々に工夫しながら脱線転覆だけはしないように皆さんの方で安全・安心のひかり号列車を目指の駅に向け走らせてもらいました。

障害の重い人にこそ、優先的に座席に座つてもらつたのでは「障害つてマイナスではないのだな」とスタッフの多くは知り始めました。でも長い間乗つていると夜の暮らしの事など、乗せたご両親などにも新たな心配事が出来始め、その都度その不安をスタッフが走り回つて解消に向けてくれるのです。

新たな駅で乗り込んできた仲間たちやスタッフの皆さんは今までと違う願いや夢を持つておられます。前から乗つておられた人と後から乗つてきた人ととの溶け合がうまくいくよう、車掌さんたちはあちこちの列車の様子を見ては心地良く乗つていられるようになります。

その努力にも限度が出始め、ひかり号列車の中だけではなくすべてが解消できないほどになつてしまっています。

■私の想い

もつて生まれた尊い命、私たちはみんな赤ちゃんの時、お母さんたちにあやされると無垢の笑顔がいっぱいでした。お母さんたちも悩み苦しむ中でもその笑顔に支えられ、応えられるようにと歩んでこられたのではないでしょうか。



私はひかり号列車で障害のある仲間たちの笑顔を一杯いただいて歩んでくることができました。こんな幸せを私が体験しているだけでは申訳ないですよね。

五〇年の駅に向けてこの列車が走り続けられるよう列車から降り、地域・社会を切り拓くのも私の責任と思ってます。共に力を合わせ進みましょう。

(理事長 立岡 晃)

記念講演

立命館大学の中村隆一先生から「障害のある人たちとともにめざすもの・発達保障の視点から」というテーマで講演いただきました。人類の歴史における障害者差別や排除は、避けられない「人間の

本能」なのでしょうか?この
ような問いに対する中村先生
の答えは「NO」。古代人は過
酷な環境の中でも、障害者を
手厚く助けながら共に家族と
して暮らしてきました。しかし、
富の蓄積や権力への志向
が生まれ、人が労働力や兵力と
して選別されるようになりました。
これが、差別や優生思想の源流となつたのです。
この事実を遺跡の写真や海外
の彫刻絵画などの様々な資料
を紹介しながら教えてください
ました。差別や排除は決して
「人間の本能」などではな
い。では、依然として差別が
ある現代の私たちは、どのよ
うな未来をつくるべきか。障
害者福祉に携わる私たちに、
大きな問題提起と勇気を与え
てくださいました。

創立40年の歴史と展望「未 来に向けてきようされんと T O M O に歩む」というテーマで、立岡理事長から講演していただきました。何もなかつた時代からコツコツと積み上げてきた共同作業所運動。今や「きようされん」は、日本の障害者運動を大きくけん引する存在となっています。作業所は全国に広がり、ひかり福祉会もさまざまな事業を開ける大きな法人として成長しました。障害者運動の現状について、ひかり福祉会40年余の歴史を紐解きながら、わかりやすくお話し下さいました。当時の貴重な写真や資料を紹介しながらのお話は、笑いあり涙あり。このひかり福祉会が多くの地域の人々の思いや尽力を結集して築き上げられてきたことを実感させるものでした。この歴史をふまえ、今後どのようにひかり福祉会の未来を作っていくのか。このような思いを新たにさせられた講演でした。

特集

ひかり福祉会 研究集会

基調講演

特集

ひかり福祉会 研究集会

～歴史と未来への展望～



■第一分科会・就労

前半は高橋専務理事に講演をしていただきました。今障害者福祉施策は、経済産業政策の一環で進められており、その流れにより『我が事・丸ごと』地域共生社会のスローガンで表現される今後の福祉サービスが検討されているということを確認しました。市町村合併により京都市に合併された旧京都府京北町の事例から、小さな自治体が政策によってどんな影響を受けるのか、人口減少の状況下、地域の存続のために地域資源を見直すという発想の転換による地域の活性化の取り組みを学びました。そのうえで、障害のある人たちの「働く」について考え、改めて「支援」とは何なのか根本的に見直す動機づけとなりました。

■第一分科会・暮らし

この分科会では、2名の利用者にご登壇いただき、今

生活に対する思いについてイントビューをしました。ホームで暮らしながら一般就労をしているKさんは「ホームは集団生活なので人間関係での悩みはあるが、休日の外出やジム通いと楽しみもたくさんある」とのこと。一人暮らしをしながら作業所を利用しているFさんは「居宅介護サービス利用による家事、薬管理、入浴見守りなどを受け、安心してひとり暮らしができていふ」とのことでした。

討論では、利用者の夢の実現に向けたサポートについて話しました。参加された世話人さんからは、ホームの環境整備や支援者の輪を広げていくなどの前向きな意見が多く出されました。また、若いうちからホーム入居、体験をすることで生活力がつくのではという意見もありました。印象的だったのは、「今は幸せ?」という質問に、両者とも「幸せ」と笑顔で答えられたことでした。長くつきあってきた支援者としても嬉しい瞬間でした。ただ両者とも、将来今を幸せと感じつつも、将来への不安はあるとのこと。支援者として、少しでも不安を払拭し、より良いサポートができるように寄り添つていき



たいと実感しました。利用者の声に元気がもらえる分科会となりました。

■第三分科会..

アクティビティ

この分科会では、アクティビティ会議で検討した事例のまとめと自閉症について学びました。それぞれの生活介護事業所からは、会議で石井先生（びわこ学園医療福祉センター野洲心理判定員）に教えていただいた知識を実践に活かした写真、動画、支援に使う治具等が紹介され、この1年の成果が具体的にわかりやすく報告されました。また自閉症のビデオでは、100人に一人と言われる自閉症人の見え方、聞こえ方が実際にどのような感じなのかについて理解することができ、こういった機会を多くの人々に知らせ、見てもらいたいとの意見も出されました。自閉症が障害ではなく、個性として捉えられ、優しい気持ちで寄り添えるような世の中になればとの感想もありました。

■第四分科会..相談

相談の分科会では、事例報告とグループワークを行いました。

した。前半は障害者支援センターそらの「高齢精神障害者の他職種チーム支援」についての報告がありました。本人の「働きたい」という気持ちを尊重した障害福祉サービス（作業所）と高齢化による身体機能の低下（予防）として介護保険サービス（デイサービス）を併用利用されている事例でしたが、併用ゆえの多職種間の連携の大切さや重要な違いもあがっていました。後半は、働き・暮らしコ

ト・支援センターより「発達障害者の就労支援」についての事例提供があり、「本人の就労したい」という気持ちに寄り添いながら、どのような道筋で支援を組み立てていくのか、本人にとつての有効な支援はどのようなものか等、熱い議論が交わされました。ケースとともに、本人の意向（意見）を大切にしながら支援を進めていく大切さとともに、その人がおかれている状況や環境なども加味した支援のあり方が必要であることを改めて学べた分科会となりました。

新人職員研修



◆平成29年度

新人職員研修

ひかり福祉会では、去る3月31日（金）に5名の新人職員を対象に「新人職員研修」を開催しました。新人研修を通じて、ひかり福祉会職員としての心構えを持つてもらうこと、各講座での学びを明日からのエネルギーにして、働きがいや、やりがいをもつて仕事をしてもらうためのステップとして開催しています。

研修は、①「ひかり福祉会が歩んだ歴史とこれまでの滋賀・障害者福祉について」②オリエンテーション、「ひかり福祉会の経営理念、業務マニュアル、権利擁護ガイドライン、指針」「各種規程、規則」の説明③「障害者福祉制度充実に向けた民意を伴った運動を展開・発展するためには」④ひかり福祉会事業所見学（長浜地域）を実施しました。

◆立岡理事長の講義から

最初に、「福祉の考え方」について話があり、日本でも世界でも、障害者（三障害）は人口の約6%を占め、現在日本

では約732万人おられ、それは愛知県の人口に匹敵し、「人口1億2700万人が、障害のある人りをしよう」ということが福祉をめざす国であると話されました。

平成18年に国連の障害者権利条約が採択され、3年前に日本政府も批准し、昨年4月には障害者差別解消法が施行されました。国際的にも国内的にも障害者を大事にしようとする制度が出来てきましたが、現実はどうかといった時に、余りにも格差が大きい事は肌で感じるところです。オリエンテーション、「ひかり福祉会の経営理念、業務マニュアル、権利擁護ガイドライン、指針」「各種規程、規則」の説明③「障害者福祉制度充実に向けた民意を伴った運動を展開・発展するためには」④ひかり福祉会事業所見学（長浜地域）を実施しました。

ひかり福祉会は42年前、障害のある人が地域であたりまえに生活して通所する施設として、無認可共同作業所「ひかり園作業所」を滋賀県で最初に作りました。当時は、教育権を剥奪（就学免除）されて学校へ行けなかつた障害児たちの死亡率が66倍ありました。それは外に出ない、日に当たらない、勉強を教えてもらえない、給食を食べられない、予防接種、身体検査を受けられないことにあり、昭和54年に養護学校義務制ができたことで、死亡率が一気に下がっていきました。「学校は命を育む所」「命を太らす所が作業所」であるということ、理事長の著書である「共同作業所のこころと実践」を手元

ない。そういう事をこの仕事を通してやっていいってほしいとお話ししました。

滋賀県では、故糸賀一雄氏によつて、終戦直後に戦災孤児のために「近江学園」が創設され、ここから福祉先進県と呼ばれるようになります。糸賀氏の「福祉の思想」という本で「この子らを世の光に」ということばが生まれました。

ひかり福祉会は42年前、障害のある人が地域であたりましては、親はしんどいからといって、辞めることはできないのです。そこをどう考えるかはあなたたちの自由です。福祉の原点は『この子らを世の光に』です」と話を締めくぐられました。



におきながら、ひかり福祉会の歴史や作業所での実践・経験・運動の大切さについて話をされました。

理事長は、新人職員に向け、まずは目の前の利用者に一生懸命関わりを持ちつつ、その後には、「『辞めたいな』と思ったときは、自分が就職したときの気持ちを思い出し、原点に返つて下さい。障害者や親はしんどいからといって、辞めるとはできないのであります。そこをどう考えるかはあなたたちの自由です。福祉の原点は『この子らを世の光に』です」と話を締めくぐられました。

新人職員紹介



◆ 新人職員への
インタビューから

大古さん／頑張りますので宜しくお願ひします。18歳です。（本当かな）本当に寄り添える、利用者さんにもご家族にも寄り添える支援者であります。

有川さん／まだまだ不安なところもあって、迷惑をかける事が多々あると思います。優しい（？）先輩職員たちが居て安心しています。一人一人と真剣に向き合い、利用者さんにとって必要な支援は何か

いや困難なことも多いでしょが、楽しみややりがいを持つ業務にあたって頂けるようになると研修を開催しています。講座を聴いている皆さんの真剣な眼差し、真摯な姿勢、そして、自身の考えを話される姿も頼もしく感じているところです。初心を大切にして、また迷ったときには先輩職員に聞いて下さい。そして、障害ある人たちの「あたり前に働き・暮らす」の実現に向けて、共に頑張っていきましょう。

（共育・研修委員会 委員長 山瀬）



ひかり園

河本文教福祉振興会

2016年12月8日、河本文教福祉振興会様より車両の寄贈を受けました。おかげさまで、利用者さんの送迎に大活躍しております。
ここにご報告を申し上げますとともに、引き続き安全運転に努めていきたいと思います。ありがとうございました。



寄贈車両 アトレーワゴン

たんぽぽ作業所

ダイトロン福祉財団

ダイトロン福祉財団様より第15回障害者福祉助成金を賜り、ポン菓子機を購入させて頂きました。これを利用し、地元産の大豆をはせて、「ころころおやつ豆」としていろいろな味付をして、利用者と販売しています。地域の皆さんから、素朴で懐かしい豆菓子に人気が出ています。今後もポン菓子機を大切に使っておいしいおやつを作っています。ありがとうございました。



助成金	303,000円
自己資金	56,000円
総額	359,000円

助成・寄贈報告

と考え、日々成長していきた
いと思います。

西川さん／誰からも好かれる
ように（無理なら5～6割
に）誠心誠意頑張る気持ちで
います。

馬場さん／学校を卒業したば
かりなので色々な事が初めて
で、戸惑う事もありますが、
仲間のみんなが温かく受け入
れてくれ、職員の皆さんも丁
寧に教えて下さるので、これ
からも頑張っていこうと思
います。

竹内さん／不安ばかりです
が、こちらが成長させて頂け
る事が多いと思います。私が
させで頂ける事があれば全力
で取り組みたいと思います。

2000年12月12日 第三種類郵便承認毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

ひかり福祉会及び事業所へのご寄付ありがとうございました【寄付金・物品等】

(平成28年10月1日～29年3月31日 敬称略 順不同)

寄付物品

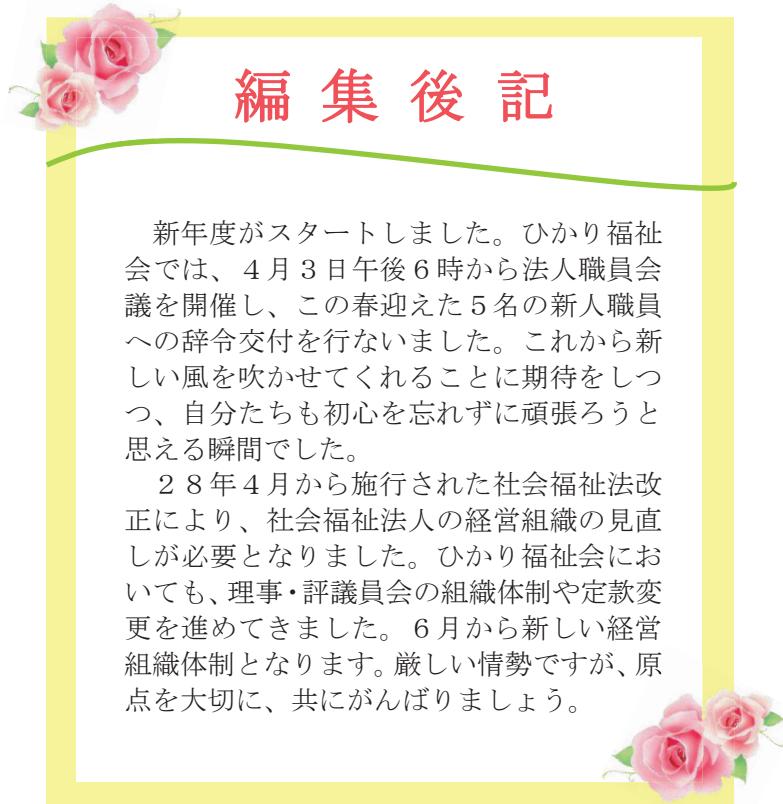
安孫子義昭	磯崎 俊伸	大塚阿紀子	奥村まゆみ	斎藤 佳伸	坂口 景子
谷利 啓子	田中智比呂	飛田ゆかり	富尾 京子	長澤 政弘	中島とも子
樋口 高年	堀田 博行	堀江 準子	松居 治男	丸野 哲司	道田 紗乃
三橋つた子	森 晋作	森本真由美	山田 悠史	山本 正和	山本まどか
山本 洋子	匿名				

あかね寮	エル・アテインスイミングスクール長浜	カーブス	関西ハム
甲良養護学校	滋賀県生命保険協会	トップワン	長浜養護学校
ライフリーフ	れんげはうす		ひばり観光バス

寄付金

海藤 恵子	勝部 治雄	川瀬 源信	上坂 千鶴	白石 剛	寺村 清次
橋本 昌則					
アサヒ飲料株式会社	株式会社北庄	公益財団法人河本文教福祉振興会			
滋賀県生命保険協会	はびねす保険	ひかり福祉会後援会			

社会福祉法人 ひかり福祉会



◆就労移行支援・就労継続支援B型・生活介護◆

ひかり園 輝湖里 ひので作業所

友愛ハウス ワークセンター紹

たんぽぽ作業所 セルフひこね

HEART WORK 結 工房ふれっしゅ

彦華堂

◆グループホーム◆

長浜かざぐるまホーム 長浜里の家

米原螢の家 ひこねたんぽぽホーム

ひこね芹川ホーム ひこねひまわりホーム

ひこね七里ホーム ひこねわたぼうしホーム

◆日中一時支援・短期入所◆

ひかり園 ひので作業所

ショートステイほたる

◆相談支援・計画相談・就労支援・居宅支援◆

障害者支援センターそら

働き・暮らしコト支援センター

相談支援センターあおい ヘルプもあ

■発行人：関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

■編集人：社会福祉法人 ひかり福祉会 長浜市鳥羽上町68-1

■定価：30円